



川俣小学校「学校だより」

輝くひとみ

令和3年3月12日(金) 第47号

教育目標 ☆すすんで学ぶ子ども
☆思いやりのある子ども
☆ねばり強い子ども
☆たくましい子ども
発行者 校長 本名 武

3.11 子どもたちに伝えたいこと



東日本大震災から10年の節目となる昨日、大喪中ノ国旗掲揚下で生き生きと活動する子どもたちの日常がありました。当時、小さなお子さん・生まれて間もないお子さんを抱えていたり、妊娠中であつたり、また、それぞれの状況下でみなさん大変な思いをされたことと推察いたします。あの日から10年です。

学校では、これまで3月の集会などで、震災当時のことやそのときの教訓、防災・放射線等の話を子どもたちに伝えてきました。昨日、子どもたちに話したことをここに掲載します。

10年前の今日は、巨大地震と大津波が襲った東日本大震災の発生した日です。その後、原子力発電所の事故も起き、この川俣小にも浪江町から700人を超える人たちが避難し寝泊まりをしました。今日は、その日のこと、あの日の日本人のことを外国ではどのように伝えたかお話しします。



外国の新聞等では、それぞれ次のように報じました。

「大地震後の物が散乱しているコンビニ店内。人々は落ちている食料品を拾い黙ってレジにならぶ。店側も停電の中、発電機で店内を照らし、レジを動かして必死に対応している。やがて、発電機の燃料がなくなり、店内が暗くなると、人々は持っている品物を棚に戻し、静かに店から出て行った。」

「災害につきものの略奪やうばい合いが見られない、怒鳴り声の代わりに耳にする言葉は『ありがとうございます』『すみません』『私はいいですから他の人に』の言葉。」

「何十kmの気の遠くなる交通渋滞、永遠に続くかと思われた時間の中で、私は目的地に着くまで、ただの一度も野蛮なクラクションを聞かなかったことに、今驚いている。」

「配給の列に割り込む者はいない。そして配給後の広場には、ごみ1つ落ちていない。」

・・・これが日本の、日本人の姿。」

「大震災で日本は全てを失った。しかし、何にも勝るものが日本には残っている。それは日本人そのものの。」

困っている人がいたら手をさしのべる。思いやりの心をもって人に接する。

人のいやがること・迷惑になることはしない。自分のやるべきことは最後までしっかり行う。

当たり前のことを当たり前に行うこと。そのことこそ、どんなときでも、日本が世界に誇れる人としての生き方（「日本の品格」）です。



これからを生き抜く、そして、福島、日本の、世界の未来を担う川俣小のみなさんに、今しっかりと人としての生き方、誇りある生き方の意味を考えてほしいと思います。そのためにも、今日の日を忘れず「3.11に学ぼう」の資料などをもとに、学年に応じて、自他の命を守り、生き抜く力を育む学びをこれからも続けていきましょう。

先月13日の大地震。3.11は単に過去のことではないことを思い知らされました。それぞれのご家庭におかれましても、3.11の教訓等ご指導いただければ幸いです。